



53 阪神、31年前のCM曲を刷新

阪神電気鉄道（大阪市）は、沿線の魅力を伝えるPR動画をリニューアルした。31年前に同社のCMソングとして作られた楽曲を現代風にアレンジし、沿線住民や、阪神電車で通勤・通学する人たちが歌いつないでいく構成で、親しみやすい作品となっている。

同社が手掛ける市民参加型のPR動画の第2弾。楽曲の「ほくらの街の阪神電車」は大阪出身のブルースバンド「憂歌団」が1987年に制作した。「シュツダパドゥフ シュツダフ」という歌詞が印象的なブルース調の曲で、今回はボーカル木村充揮さんに代わり、加西市出身の若手シンガー・ソングライターはせがわかおりさんがカバーした。

住民ら出演、沿線の魅力PR

約30秒の動画には、三和本通商店街（尼崎市）の人気たい焼き店や、武庫川女子大学（西宮市）のパトロン・チャリティーデザイン部、同大付属高校同のマーチングバンド部などが出演。一つの画面の中に複数の人物の笑顔や風景を組み合わせ、沿線の活気を表現している。同社の担当者は「人々の姿を通じて沿線のぬくもりや心地よさをリアルに伝えたい」としている。

甲子園駅や梅田駅、同社のホームがカバーした。

沿線住民らが出演する新しいPR動画（阪神電気鉄道提供）

ムページ、甲子園球場の大型スクリーンなどで約2年間公開する。
 （竹本拓也）

